

山風
か風

微

風

吹

動

おじいさんの道くさ

僕が死んだらハイになつて
笑う花を咲かせましょう
そのとき君が今のままなら
きつと僕だと気付いてくれるでしょう

振り返れば地図も持たぬまま
幾つかの時代を横目に歩いた
思惑違いも多々あれど
それが人生と言つものなのでしょう

遠まわり遠まわりするのさ

どんな道草にも花は咲く

(モアリズム「笑う花」より)

工藤量導

第 23 回

連載

「おじいさん、アメリカに行つたんだって!!」。風呂上がりの妻が、3歳の息子に元気いっぱいに呼びかけられて、戸惑い顔をしている。

時を戻そう。3分ほど前のことだ。息子が部屋の掛け時計を指しながら「時計のおじいさんはどこに行つたの?」と繰り返し聞いてくる。妖精でも見えているのだろうかと不審に思つていると、どうやら童謡「大きな古時計」に出てくるおじいさんのことらしい。うーむ。後半の歌詞に「てんごくへのぼるおじいさん」とあるものの、はたしてどう伝えるべきか、なかなかの難問だ。

インターネット上に何かヒントが転がっていないか調べてみたところ、もとは英語の歌詞で、19世紀後半に活躍したアメリカの作曲家が、イギリスのホテルを経営していた兄弟と古時計のエピソードを聞いて感銘を受け、その物語を歌詞にしたためて大ヒットしたものだという。

「なるほどアメリカの童謡なのか」と思わず口にすると、息子が「アメリカ」と神妙な顔つきでつぶやいていた。気づけばいつの間にか質問の風もおさまっている。そして、冒頭の場面に至つたのだ。

事情の分からぬ妻に経緯を説明すると、瞬く間に破顔一笑。息子の中ではあの難問が「アメリカに行つたおじいさん」で解決されたわけだ。世界地図どころか日本地図も頭に入つていないので、「アメリカ」という言葉に妙な納得感を抱くというのも不思議なものである。ほとほと子どもの空想力には驚かさ

くどう りょうどう 1980年青森県今別町生まれ。青森教区本覚寺副住職。博士（仏教学）。浄土宗総合研究所研究員、大正大学非常勤講師、淑徳大学兼任講師。専門は中国浄土教、著書に『迦才』『浄土論』と中国浄土教—凡夫化土往生説の思想形成』（法藏館、2013年）など。

れる。一方、内心ではそろそろ「この後どうなってしまうの？」というテーマの絵本を買ってあげないと、という想いが募り始めていた。

最近、水月昭道『子どもの道くさ』というブックレットを手にした。「道くさ」という言葉はどこか甘美な響きで、子ども時代のノスタルジックな気分を醸成し、黄色信号が「走れ」の合図だったあの頃を懐かしく思い出させてくれる。ところが、最近は子どもの遊び場が少なくなり、指定通学路とよばれる下校ルートが「安全確保」を最優先に決められてしまい、道くさの機会が激減しているという。社会的にも、道くさという言葉は単なる「遠まわり」で無用なものというレッテルが貼られており、著者の言葉を借りれば、まさに「道くさの貧困化」という状況なのである。

それでも、というべきか、子どもたちは親の監視や校則といった幾多の難関をかいくぐり、見事なまでのフロンティアスピリッツを發揮して、道くさとうミッショントを痛快に成し遂げていた。子どもの世界観からみれば、選ばれし道くさルートには彼らなりの理由があつて、大人には見えない宝物のような豊かな情報がぎっしりつまっているのだ。

子どもたちの下校ルートを調査してみると、おおまかに①反応型、②注目型、③発見型、④無目的型、⑤立ち話型、⑥規則型、⑦暇つぶし型、⑧交流型、⑨目的型という九類型があつたという。確かにどれもこれも身に覚えがあるよう

な項目だと思う。大人の今までさえ、帰り道の立ち話や雑談は楽しくてやめられないでいるのだから。

子どもたちは、その道を通ること自体に何らかの楽しみを見いだしており、子どもの健全な発達には、健全な道くさを可能とする地域の環境が必要である、という結論にも深く頷かせられた。

仏教のはてなき道程からみれば、そもそも人生なんて道くさばかりで、詮ずる所、すべてが遠まわりといつても過言ではないのかもしれない。夢中で嬉しいこと悲しいことを繰り返しているうちに、チクタクチクタクと時が刻まれてゆき、いつの間にか古時計のように動かなくなり、解体されて灰になってしまふことだろう。

さて、わが息子が想いを寄せるアメリカに旅立ったおじいさんはその後どうしたのだろうか。おそらく順調にイギリスを越え、大西洋を越えて、地図も持たぬまま、ゴールドラッシュに沸く遙か西方の黄金郷を目指して歩み出したことだろう。途上の道くさでふと目を落とせば、路端に花々が咲き誇り、微風に揺られながらおだやかにほほ笑みかけている。おじいさんはきっと気づいてくれるはずだ、その花は古時計の生まれ変わりなのだと。そんなロマンあふれる空想の続きを、いつか息子に贈つてあげたい。